

○作品タイトル

『イジメ撲滅將軍』

○著者名

太田 純平

○あらすじ（139字）

中学一の暴君である小野が今日も同級生をイジめる中、全校集会が開かれる。そこで生徒会長の工藤は、学校にはびこるイジメ問題を解決すべく「イジメ撲滅將軍」という役職を創設することを表明。その初代「將軍」に小野を任命する。

○特記事項

本気でイジメをなくしたい、との思いから、強いメッセージ性のある作品に仕上げました。

○本編文字数

3729文字

○登場人物表

小野 竜之介（15）中学3年生

工藤 英知（15）同級生・生徒会長

志々目 雄平（17）高校生・不良

前坂（15）同級生

嶋（15）同級生

細村（15）同級生

上倉（15）同級生

五日市（15）同級生

ヤンキーA（22）志々目の仲間

ヤンキーB（24）志々目の仲間

○1 中学校・教室のベランダ（朝）

3階建ての3階。

小野竜之介（15）が、同級生の男子を手すりから落っことそうとしている。

小野「オラ、オラ」

小野はじゃれている感じだが、被害者は本気で嫌がっている感じ。

それを教室から見ている同級生たちが、関わらないようにそっぽを向く。

○2 同・教室（朝）

ホームルームの時間。

先生がプリントを配っている。

配られた紙を見る小野。

プリントの題名は『いじめに関する匿名アンケート』。設問は『あなたは今、いじめられていますか？』『誰にいじめられていますか？』など。

先生の目を盗み、プリントを丸める小野。それを教室のゴミ箱に遠投、見事イン！

○3 同・体育館（朝）

全校集会の時間。

整列している全校生徒。

小野だけ列を乱し、そこらの同級生に向かってシャドーボクシング。

壇上に生徒会長の工藤英知（15）が登壇する。

工藤、マイクの前で、

工藤「えー、生徒会長の工藤です。全校集会の最後に、少しだけ私にお時間をください」
シャドーボクシングを続ける小野。実際にパンチが当たってヘラヘラしたり。

工藤「私が本日、この場で訴えたいことは、イジメに関する問題です」

ざわつく生徒たち。

小野も「？」と顔を向ける。

工藤「ハッキリ言って私は、今の世の中に失望しております。どうして学校から——どうして世界から、イジメがなくならないの

か、と……」

居並ぶ先生たち、不審そうに互いの顔を見合う。

工藤「世の中から、本気でイジメをなくしたい。だけど、そのために必要なのは、『イジメをなくそう』なんていう綺麗事のスロ―ガンや、こんな（プリント）、イジメに関するアンケートではありません！」

居並ぶ先生たちの「このまま演説を続けさせていいのか？」と協議をする感じ。

工藤「本気でイジメをなくすためには、強いリーダーシップが必要です。この『強い』という表現は、決して気持ちだとか、想いだとか、メンタリテイのことを言っているわけではありません。実際に腕っぷしが強い、ケンカが強い、悪いやつと戦うことが出来る、本当の強さを指しています！
私はこの強いリーダーシップのことを『將軍』と名付けました！」

生徒のざわめきが激しさを増す。

工藤「ここで私は、皆さんに提案をしたい！
本校からイジメをなくすために、本物の強
いリーダーを一人、選任しようではありません
せんか！ その名も名付けて『イジメ撲滅
将軍』です！」

生徒の様々な反応。嘲笑する者、賛同す
るように頷く者、ヒソヒソ話をする者。

先生たちは工藤を下ろそうと動き始める。

工藤「3年4組、小野竜之介くん！」

小野の名に体育館が水を打つ。

工藤を睨む小野の顔。

工藤「私はここに、生徒会長の権限を持って、

初代イジメ撲滅将軍の座に、3年4組の小

野クンを任命します！」

壇上が上がってきた複数の先生が、工藤
を脇から抱えて壇上から下ろそうとする。

工藤「（抵抗しながら）さあ！ 小野くん！

小野くんが将軍だ！ この学校から、い

や！ この世界から、イジメをなくそうじ

やないか！」

名指しされた小野、仲間うちに「アイツ、ボコっていい？」と拳を見せる。

○4 同・男子トイレ（朝）

工藤が地べたに倒れ込む。

その工藤に小野が蹴りをいれる。

小野「俺が、ショーグンだって？」

小野、執拗に工藤を蹴る。

そのうち蹴りが顔に当たり、工藤が出血。

しかし工藤の顔には笑みが。

小野、工藤の胸倉を掴んで、

小野「何がおかしいんだよ？」

工藤「これだよ、これ……」

小野「あ？」

工藤「キミは強いんだ……この強さを……正しいことに……」

小野、拳を振りかぶるが、ちょうどチャイムが鳴る。

工藤、よろよると立ち上がって、

工藤「大丈夫……僕は言わないよ……キミに

殴られたとは……決してね……」

と言いながらフラフラと出ていく。

○5 同・教室（朝）

日本史の授業中。

黒板に板書している先生。

自席で貧乏ゆすりしてる小野。

小野のほうを見ながら内緒話をしている

生徒たち。しきりに「將軍」というワー

ドが飛び交っている。

小野、「將軍」と発言したやつを睨む。

○6 河川敷（夕方）

歩いている小野。

何やら前方に学生の集団が。

同級生の男子・前坂（15）が、不良の

高校生ら数名にカツアゲに遭っている。

不良のボス格・志々目雄平（17）が、

志々目「オラ早く出せよ財布をよオ」

と前坂を詰めている。

前坂、小野を見つけ、

前坂「あっ！ 将軍！」

不良グループが振り返る。

小野、無視して行こうとする。

前坂「将軍！ 助けて！」

志々目「シヨーングンだあ？」

不良グループ、笑いながら、

志々目「オイ、シヨーングン。助けてよ〜」

小野、それでも無視。

志々目、小野に詰め寄って、

志々目「オイ！ 無視すんなよチューボー！」

肩を掴まれた小野、振り返って志々目を

睨むなり、ニヤツと笑って――

○7 中学校・廊下（翌日・朝）

廊下に何組かの学生たち。

そこへ小野が登校してくる。

するとそこかしこで内緒話が。

「将軍だ」「不良から助けたいらしいよ」

「高校生をボコボコだって」……。

小野、気にせず歩き、教室へ。

○ 8 同・男子トイレ（朝）

籠城するように閉じられた個室。

その個室の扉を、男子の嶋（15）が執拗に叩きながら、

嶋「オラオラ！ 早く出て来いよ！ カネを渡すか殴られるか、どっちなんだよ！」
すると用を足しに小野が入って来る。

嶋、小野を見るなり、

嶋「げっ！ 將軍！」

と驚き、一目散にトイレから出て行く。

小野、なんの気なしに用を足す。

すると個室の扉が開き、中にいた男子がそーっと顔を出し、小野の背中を見る。

○ 9 同・体育館裏（昼）

小野が仲間数人とトランプをやっている。
どうやらババ抜きのようなのだ。

すると男子の細村（15）がやって来て、

細村「あのオ、將軍。手芸部のみんなで、將軍の衣装を作りたいんだけど、ちよつと寸法を測らせてくれないかな？」

と、持って来たメジャーを示す。

小野「あ？」

さらに別の男子・上倉（15）がスマホを片手にやって来て、

上倉「あ、將軍。風紀委員のみんなで『イジメホットライン』っていうグループを作ったんだけど、將軍もグループに招待していかい？」

小野「はあ？」

また別の男子・五日市（15）が、五日市「將軍。今度、我が映画部で、將軍を主演に映画を撮ろうと思うのだけど、脚本はこんな感じでいいかな？」

と、小野に台本を差し出す。

小野、トランプを投げ捨て、一人どこかへ行ってしまふ。

○10 河川敷（夕方）

制服姿の小野が寝そべっている。
物思いに耽るように川を見つめている。
するとホームレスの男が現れて、そこら
に落ちているガラクタを拾いだす。

小野、独り言のように、

小野「アンタの気持ち分かるよ」
とぼつり。

川に向かって、石ころを投げる。

○11 チェーンの安い牛井屋の前（夜）

小野が来て、メニュー表を見る。
財布を取り出し、中を覗く。

すっからかん。あるのは絆創膏くらい。

小野、タメ息を吐き、立ち去る。

○12 駅前の路地（夜）

数名の不良が、工藤を囲っている。
その中に志々目もいて、工藤を逃がさな
いように肩を掴んでいる。しかし志々目

らは手負い。顔に絆創膏を貼っていたり。
すると小野が通りがかる。

志々目「オイ！」

顔を向ける小野。

不良たちと工藤の姿。

小野、無視して行こうとする。

志々目「オーイ無視してんじゃねえよ！」

志々目ら不良、工藤を解放し、小野を取り囲む。

小野、立ち止まって、

小野「加勢しましょうか？」

志々目「あ？」

小野、工藤を顎でしゃくり、

小野「俺もコイツには腹立ってんすよ。一緒にボコりましょうか」

志々目ら、答ええない。不良の一人、なにやらスマホで電話を掛ける。

工藤、喧嘩が始まりそうな雰囲気飲まれ、こそこそと逃げ去る。

行く手を塞がれた小野、やれやれといっ

た表情。

○13 駅前（夜）

走って逃げて来た工藤。

立ち止まり、呼吸を整える。

走って来たほうを向いて、やっぱり戻ろ

うかと思案顔。

○14 駅前の路地（夜）

志々目らに囲まれている小野。

そこへ爆音とともにバイクが何台かやって来る。

バイクから大人のヤンキーが降りてきて、

ヤンキーA「こいつか、調子にノってんの」

ヤンキーB「強いんだろ？ ショーゲンさん

よお」

志々目ら含めて7、8人に囲まれる小野。

志々目が小野に向かって、

志々目「ここじゃなんだ。ちよつとツラ貸せ

よ」

小野「……」

○15 暗闇（小野の意識）

工藤の声「將軍！……將軍ッ！」

○16 河川敷（夜）

傷だらけで倒れている小野。

ゆっくりと目を開ける。

脇で見守っていた工藤が、

工藤「將軍！」

と明るい顔に。しかし工藤も傷だらけで
ある。

小野「どうして……お前が？」

工藤「僕も、戦った」

小野「お前が？」

工藤「やられたただけだけど」

小野、フツと笑い、

小野「たいしたもんだよ」

工藤「いやあ、僕なんか——」

小野「お前が一番強かった」

工藤「將軍……」

小野、力尽きたように、ガクリ。

工藤、小野を揺さぶって、

工藤「將軍？ 將軍ッ！」

○17 中学校・廊下（一か月後・昼）

談笑している生徒。

ふと視線が誰かにいく。

そこには兜をかぶりマントをたなびかせ

颯爽と歩く男の後ろ姿が（小野）。

○18 同・生徒会役員室（昼）

着座している10人ほどの生徒。

その中心には工藤が。

そこへ兜とマントを着用した小野が入っ

て来て、工藤の隣に着座する。

工藤「揃ったね」

雄々しく腕組みする小野。

工藤「では、イジメ撲滅会議を始める」

（完）